

# Perplexity Multiagent: 異種AI協働による知財業務のパラダイムシフト

Gemini 4 Carbon等のフロンティアモデル統合
戦略とセキュアな実装プレイブック

Gemini Notebook



## The Limit:
## 単一モデルの限界

単一AIでは、複雑な知財文書（クレーム、図面、先行技術）の処理において「同調バイアス」や「文脈の忘却」が避けられず、致命的なハルシネーション（幻覚）が発生する。



## The Innovation:
## 異種モデル混成

Perplexity Multiagentは、開発元の異なる最上位AI（Claude, GPT, Gemini）最大16体を協働させる。AI同士が直接議論し、矛盾を相互監査することで精度を劇的に向上させる。

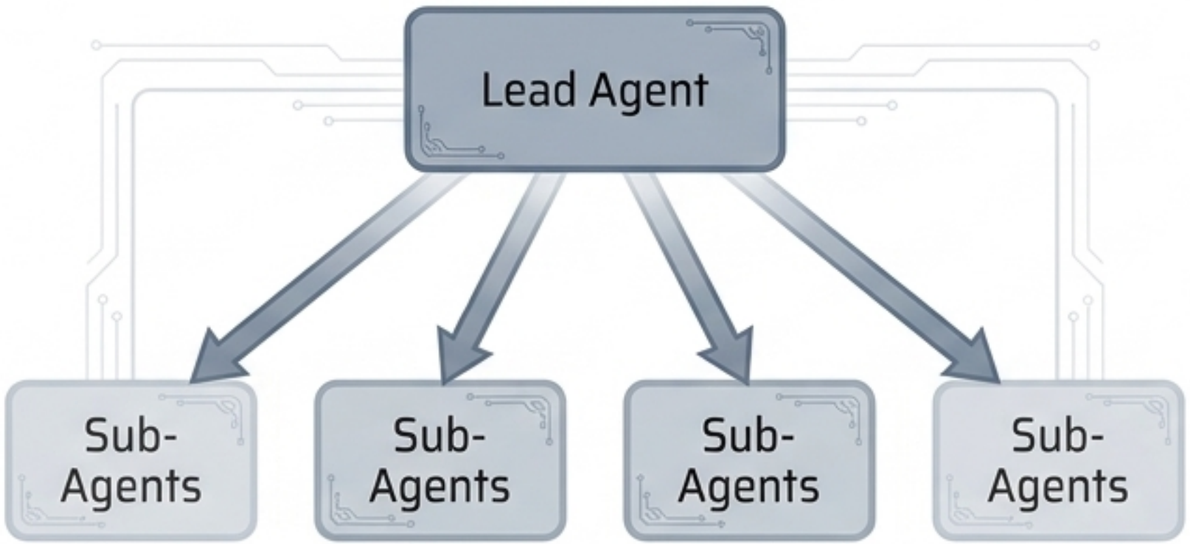


## The Governance:
## 絶対的な統制要件

知財特有の機密漏洩・規約違反リスクを防ぐため、ゼロデータ保持（ZDR）を担保する「Enterprise Max環境」と、知財特化型AIを併用する「2段階ファネル戦略」が実務導入の絶対条件となる。

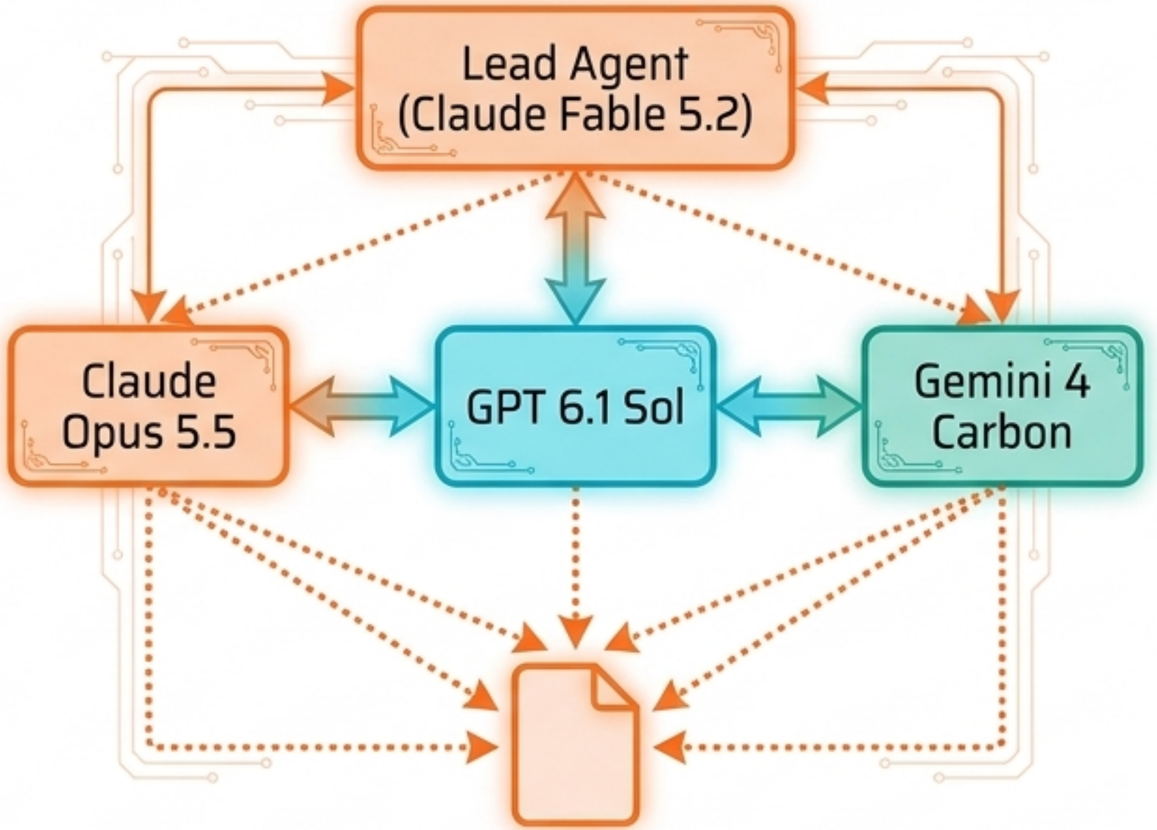
Gemini Notebook

## 従来型: Ultra (Hub-and-Spoke)




情報の孤立: 一方通行の指示

## 最新型: Multiagent (Peer-to-Peer Cross-Check)




Shared Deliverable: 成果物の共同編集

相互監査: ピアツーピアの直接通信と矛盾検知

Gemini Notebook

# The Special Forces: 異種フロンティアモデルの役割分担

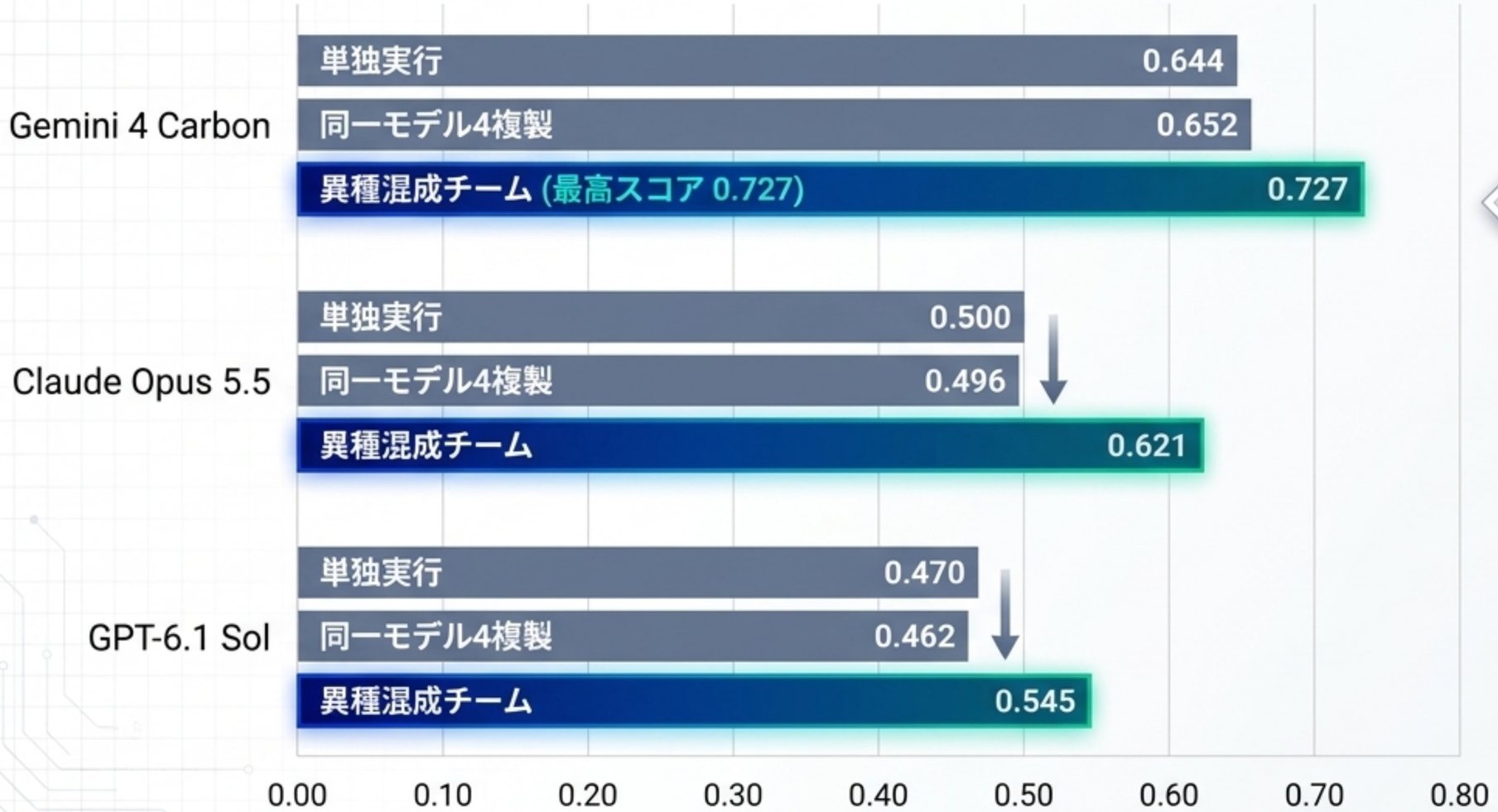
| | 役割 (Role) | 担当モデル (Model) | 特性・強み (Capabilities) |
|---|---|---|---|
| 1 | 全体設計・推論 (Lead) | Claude Fable 5.2 | 最高水準の推論力。複雑なタスクの長期計画と高度な論理展開に特化。 |
| 2 | 事実照合・牽制 (Audit) | Gemini 4 Carbon | ハルシネーション率最小（11.4%）。他のモデルが生成した根拠の裏付けと矛盾の監査を担当。 |
| 3 | 執筆・構造化 (Write) | Claude Opus 5.5 | 長文読解とビジネス成果物（クレームチャートや報告書）の高品質なまとめ上げに強み。 |
| 4 | 並行調査 (Parallel) | GPT-6.1 Sol | 高いコスト効率と高スループット。独立した並列サブタスクを経済的に高速処理。 |

**結論: 学習バイアスや得意領域の異なるモデルを混在させることで、単一モデルでは見過ごされる論理的飛躍を「システムレベルで相互牽制」する。**

Gemini Notebook

# The Benchmark Paradox: 同一複製 vs 異種混成

## Terminal-Bench 4.1 スコア比較




### 推論バイアスの同調パラドックス

同じAIを4体並べると、誤った前提を相互に補強し合い精度が低下する。異種モデルの混成のみがスコアを劇的に押し上げる。

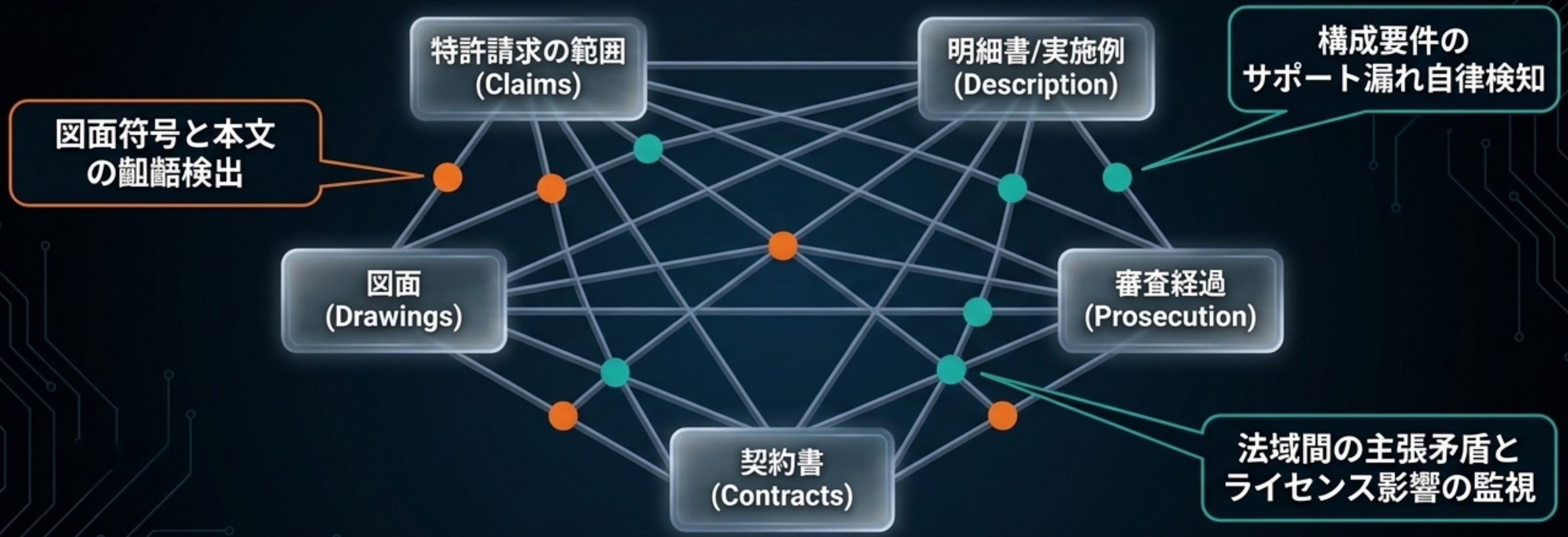
### コスト削減効果

高単価モデルの同一複製 ($66.41) よりも、低単価モデルを織り交ぜた異種混成チーム ($54.50) の方が実行コストを抑えつつ高精度を実現する。

データ来源: Terminal-Bench 4.1スコア実行
データ来源: 高価モデル ($66.41) よりも、Terminal-Bench 4.1 低単価モデル複製
異種モデルチーム ($54.50)の、異種混成チームをつつ高精度を実現する

Gemini Notebook

# The Perfect Match: 知財文書の複雑性と相互検証

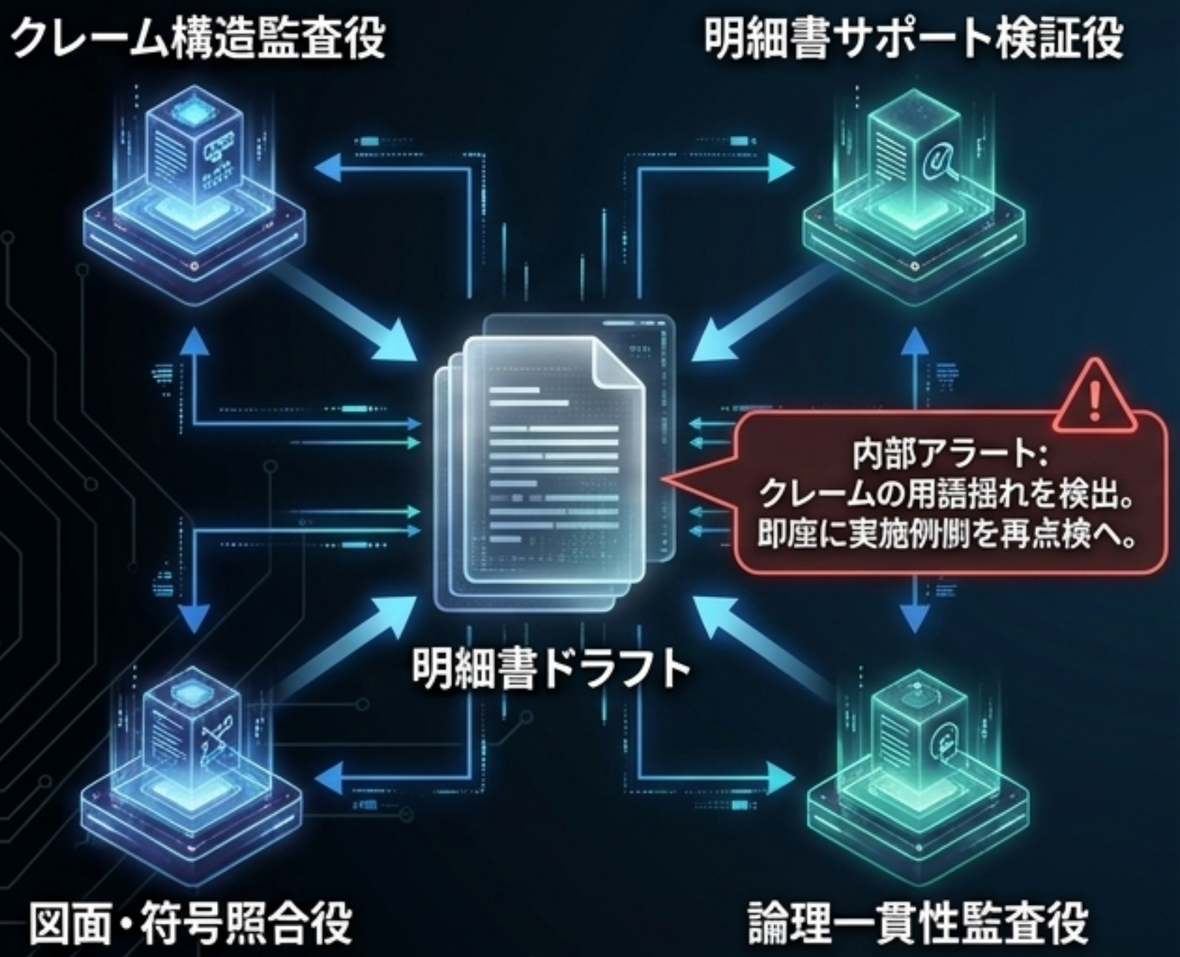



知財文書特有の「厳密な論理的・語彙的整合性」に対する要求に対し、Multiagentの「文書パートごとに別々のエージェントを配置し、統合前に矛盾を相互批判する」アーキテクチャが完璧に合致する。

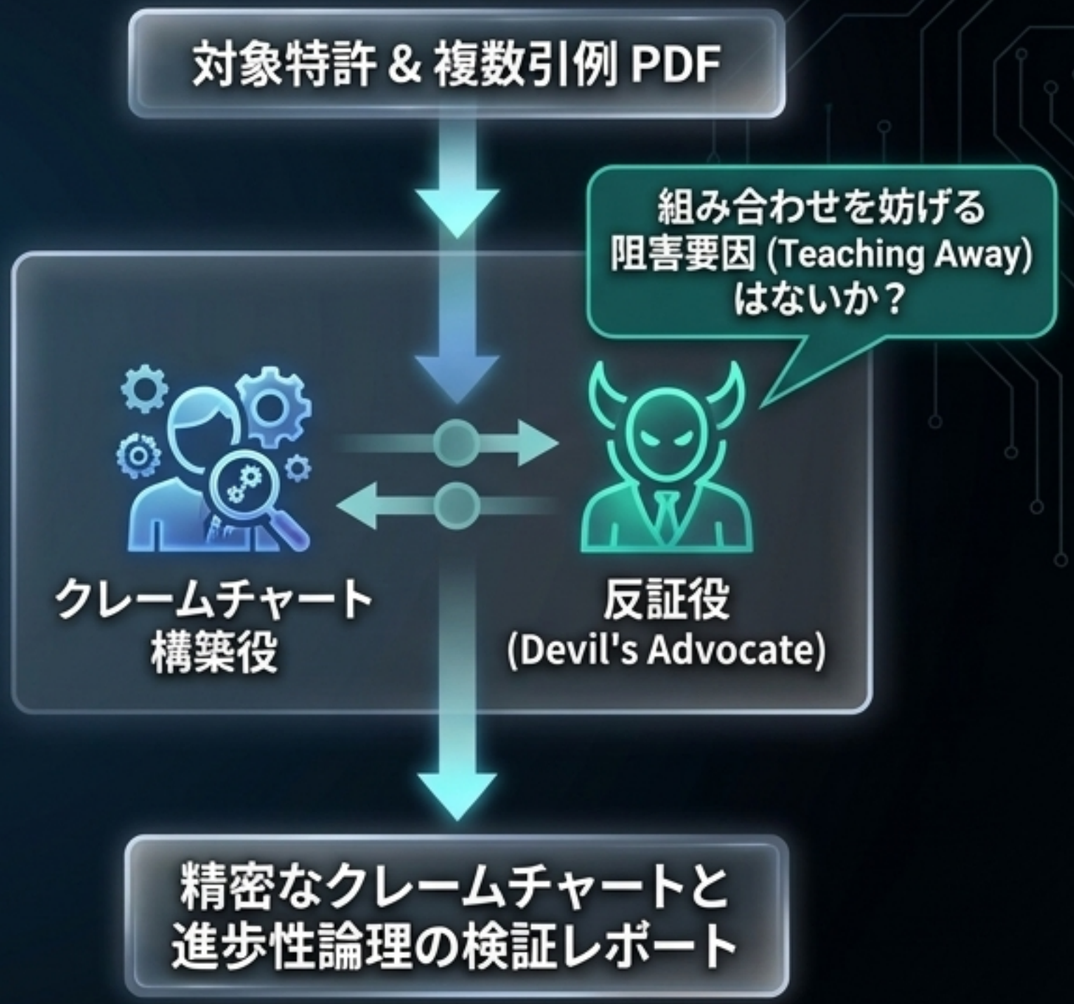
Gemini Notebook

# 実践展開: 明細書監査と侵害予防調査

## ユースケース1: 明細書ドラフトの多角的監査



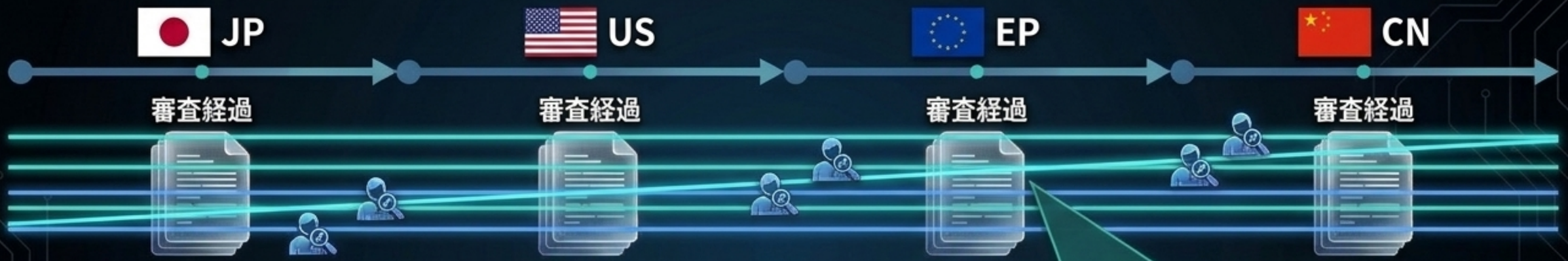

## ユースケース2: FTO・無効資料調査




Gemini Notebook

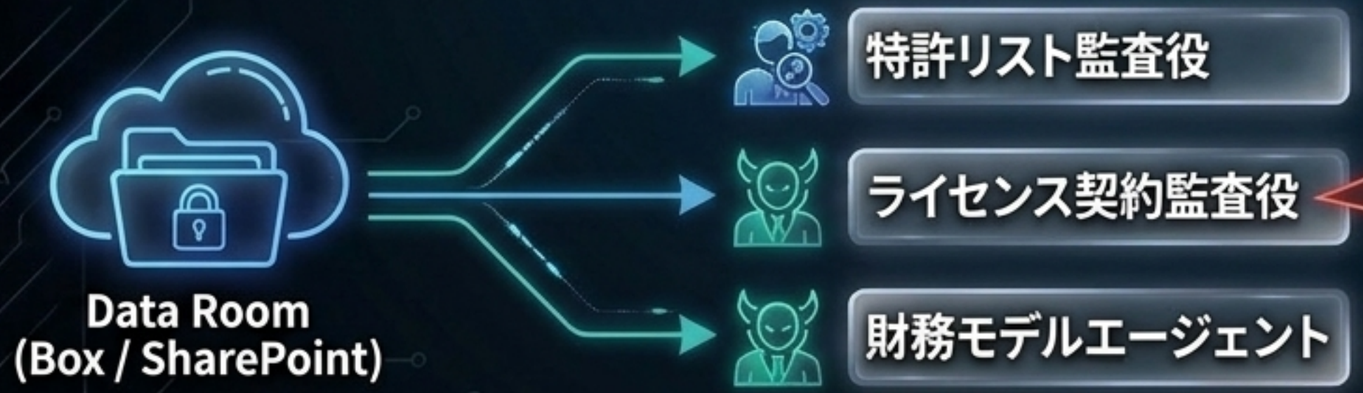
# 実践展開: グローバル中間処理とM&Aデューデリジェンス

## ユースケース3: グローバル包袋横断・禁反言リスク監視




ある国での限定解釈（減縮補正）が、他国での禁反言（エストッペル）や競合製品への捕捉性に波及しないかを複数エージェントが同時監視。

## ユースケース4: M&A知財デューデリジェンス

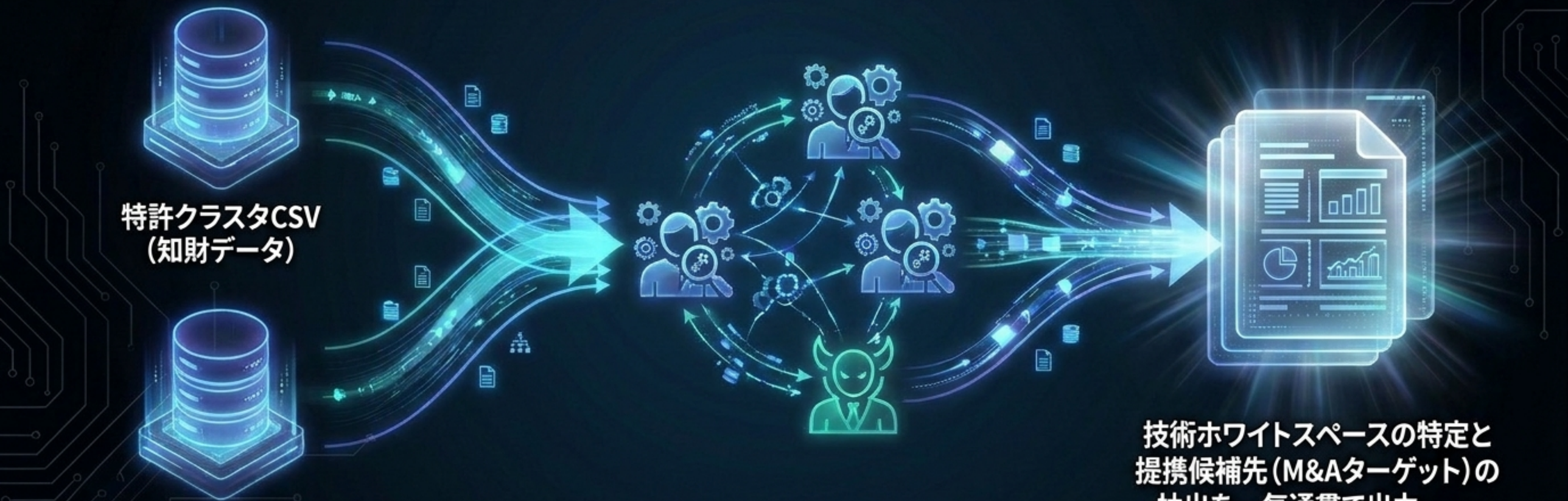



支配権変更条項（Change of Control）を発見 → 即座に財務モデルへ通知しバリュエーションを更新。

Gemini Notebook

# ユースケース5: IPランドスケープ (IPL) の高度化

## 入力層: 異分野データソース　処理層: Multiagent 協働空間　出力層: 経営提言レポート



特許クラスタCSV
（知財データ）

PitchBook / Statista
（財務・市場インテリジェンス）

エージェント群がデータを結合し、
複数の成長シナリオ別分析を並行実行。

技術ホワイトスペースの特定と
提携候補先（M&Aターゲット）の
抽出を一気通貫で出力。

Gemini Notebook

# 情報管理の罠と絶対条件: 未公開発明をどう守るか

## ⚠ The Trap: Consumer Max の罠（個人向け）



- 初期設定でAI学習がON
- ゼロデータ保持（ZDR）非対応

**致命的リスク：**未公開発明の新規性喪失、秘密管理性の毀損、弁理士の守秘義務違反を招く恐れ。

## The Requirement: Enterprise Max の絶対条件（法人向け）



- 外部プロバイダとのZDR契約締結済（学習無効）
- SPACE Sandbox による実行分離
- BYOK（顧客管理鍵）暗号化
- 添付ファイルは7日後自動削除・監査ログ完備

**実務要件：**機密情報を扱う知財実務において、Enterprise Max環境の整備は絶対的な前提条件となる。

Gemini Notebook

# 法的死角: マルチサブプロセッサ構造への対応




## 構造的課題

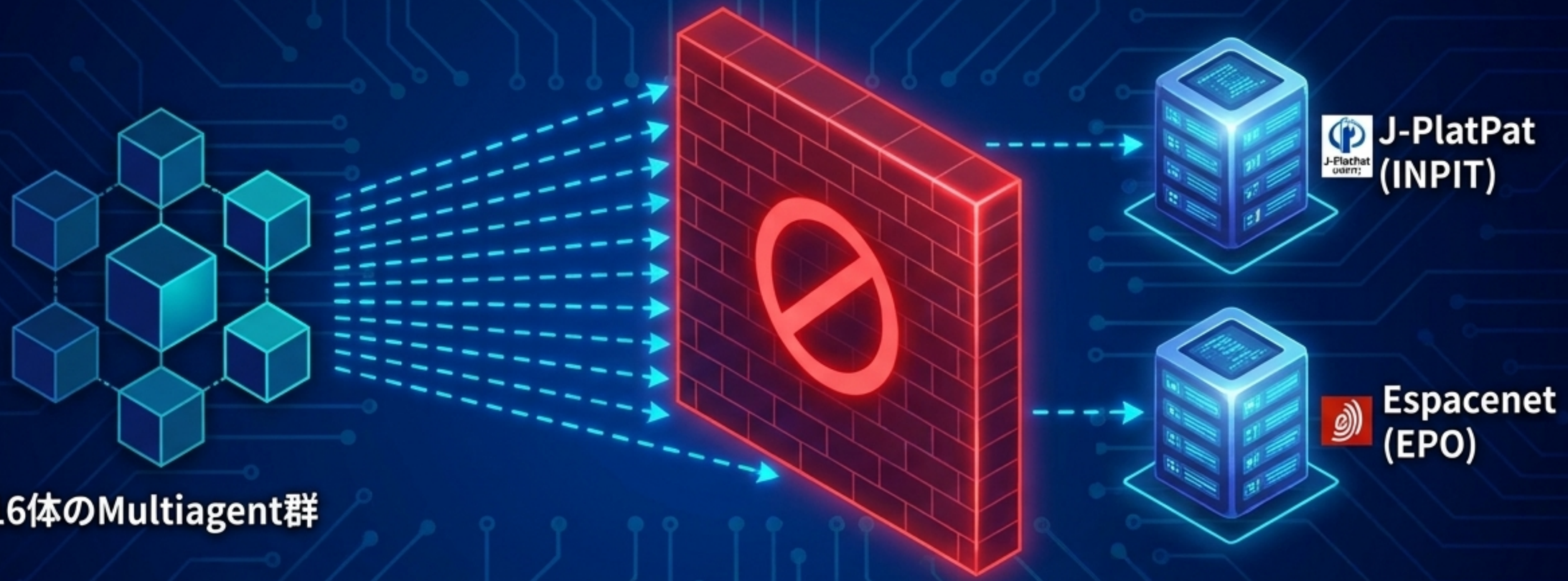
１回のプロンプト送信で、裏側にある複数のサブプロセッサ（外部事業者）へデータが同時流通する構造。

## 必須となる対策

クライアントとのNDAや受任契約における「再委託条項」の事前確認・合意取得。必要に応じて管理者画面で特定モデルの利用を制限（自動フォールバック）する運用。

Gemini Notebook

# データベースの罠: 公的DBのスクレイピング禁止規約




- **規約の壁:** INPITやEPOは、ロボットによる自動データ収集や大量アクセスを規約で明確に禁止している。
- **リスク:** エージェントに「特許を検索せよ」と指示すると、集中アクセスにより即座に規約違反・IP遮断を招く。
- **鉄則:** AIエージェントによる公的DBのWeb画面に対する直接自動巡回を、社内ルールで全面禁止すること。

Gemini Notebook

# ハイブリッド運用設計: 2段階ファネル戦略

## 1. Authorized IP Data Staging

サマリア等の知財特化AIによる適法な母集団形成・一次スクリーニング。

No Direct J-PlatPat Scraping

## 2. Enterprise Max Security Gate

Zero Data Retention (ZDR)　SPACE Sandbox & BYOK

厳選された10-20件の公報PDFのみを安全な環境へ投入。

No Consumer Max for Unfiled IP

## 3. Perplexity Multiagent Workspace

Lead Agent

- Claim & Spec Audit
- Prior Art Mapping
- Contract & Estoppel Check
- Devil's Advocate

Shared Claim Chart & Report

## 4. Human-in-the-Loop Verification

弁理士・知財担当者による一次情報の裏取りと最終判断 (AIは発明者になれない)。

Gemini Notebook

# ROIとコスト管理：クレジット経済性と実行レベル




Enterprise Max (月間15,000クレジット付与)
では、重要案件のみに的を絞る必要がある。

## 案件重要度に応じた使い分け戦略 (Effort Control)

| | |
|---|---|
| Light / Standard | 定型処理・日常業務 |
| Model Council | 独立したセカンドオピニオンが必要な単一の判断論点 |
| Multiagent | 相互依存パートの並行照合を要する超重要案件に限定投入し、ROIを極大化。 |

Gemini Notebook

# Implementation Playbook: 実践導入に向けた6つのステップ

## 1. 契約プランの厳格化

個人アカウント利用を遮断し、ZDRと暗号化が担保される「Enterprise Max」環境を整備する。

## 2. マルチサブプロセッサ対応

NDAおよび受任契約の再委託条項を点検・合意取得し、必要に応じ管理者画面でモデルを制限する。

## 3. 直接検索の禁止

J-PlatPat等への自動アクセスを禁じ、特化型AIを併用する適法なデータ投入フローを確立する。

## 4. 実行レベル管理

クレジット枯渇を防ぐため、案件の重要度に応じたMultiagentの選別的運用基準を明文化する。

## 5. スモールスタート

少数文献で精度と消費クレジットを測定し、修正指示は新規ではなく同一スレッド内で実行する。

## 6. Human-in-the-Loop の義務化

専門家による一次資料の裏取りと実質的判断プロセスを必ず保全する（AIは法的判断を代替しない）。

Gemini Notebook